



ばらばらで一緒

～美香保中だより～

発行 札幌市立美香保中学校

住所 東区北17条東6丁目1-1

電話 (011)-711-8151

「心のもち方一つで未来は変わる」

校長 伊達 峰

本日、3学期の終業式では、全校生徒に向けて次のことをお話ししました。

最初に、生徒会長と副会長のお二人はその場にお立ちください。

12月26日にカナモトホールで、札幌市人間尊重の教育フォーラムがありました。そこで二人は、約400人の先生方に向けて、さっぽろっ子サミットを通じて感じたことや今後の学校生活に期待することなどについて、ステージ上から堂々と発表しました。質疑応答も含め、参加した先生方みんなの心を揺さぶる素晴らしい内容でした。この時の様子を録画していますので、何らかのかたちで、皆さんにも共有したいと思います。…3年生からのバトンを後輩がしっかりと引き継ぎ、そして磨いています。この縦の継続こそ、本校における自治的な活動の強みです。美香保中のみんなを代表して頑張った二人に大きな拍手をお願いします。

皆さん、**おかえりなさい**。今日からこの1年間の仕上げとなる3学期が始まります。3年生にとっては、中学校生活3年間の仕上げであり、義務教育9年間の仕上げとも言えるでしょう。その仕上げに向けて、二つのエピソードをお話します。

一つ目は、十数年前になりますが、自分を表に出すことが苦手で、いつもふくれっ面をしている生徒がいました。みんなが楽しく何かをやっている時でもブス～としてることが多く、担任としてとても気になる生徒でした。三者面談の時のことです。学校生活の様子について話をしていると、その生徒が、「学校、楽しくないから…」とボソッと言いました。すると隣にいたお母さんが我が子に向けて、真剣にこう言ったのです。「楽しいから笑うんじゃない。笑うから楽しくなるんだ！」と。

“楽しさ”とは、与えられるものではなく、自ら求めていくものなのかもしれません。

二つ目は、担任として学級づくりが上手くいなくて悩んでいた時に、ふと読んだ本に書いてあったことです。その内容は、私を勇気付け、「粘り強く挑む力」を引き出してくれました。

進行性の難病にかかった中学教師が、以前の自分に比較して、自分をみじめに思い、後ろ向きになっていた時、同僚の先生に、こう言われます。「あなたは現在の状況をマイナスの目ばかりで見ているのではないですか。まだ歩けるし、大きな字なら書ける。あなたにしかできない教育があるのと違いますか？」と。そこで、自分の体について子どもたちに語り、できないことはできないと素直に話し、子どもたちにできると思うことは積極的に頼むようにしたところ、不思議なことに、子どもたちも、親たちも、同僚の先生たちも周囲がみんな変わってきたというのです。いや、周囲が変わったのではなく、自分が変わった結果、周囲の人々に変化が起こったのだと、この中学教師は思ったとのことです。

辛いことを探せば、辛いことばかり
いやなことを探せば、いやなことばかり
嬉しいことを探せば、嬉しいことばかり
ありがたいことを探せば、ありがたいことばかり

この二つのエピソードに共通していることは何だと思いませんか？それは、『**心のもち方一つで未来は変わる。**』ということです。人は変えられるのは自分だけです。今ある自分に気付き、前向きに自ら強い意志をもって行動を変えていくことで周りの状況も未来も変えていくことができます。皆さん、この仕上げの3学期は、**‘強い意志’**をもってください。

そして、もう一つ。**‘プライド’**をもってください。‘プライド’を日本語に直すと、‘誇り’です。‘プライド’をもつとは、他者に対して‘プライド’をもつことではなく、自分自身、自分たち自身に対して‘プライド’をもつということです。他者に対して‘プライド’をもつということは、他者を基準において自分を考えているということです。そんなものは本当のプライドではありません。自分が、自分たちが本当に頑張っている、頑張ったという《手応え》をもつことが本当の‘プライド’です。



～古紙回収を行いました～

冬休み最終日である1月14日(火)に生徒会役員の生徒が古紙回収を行いました。中学校だけではなく、美香保小学校にも赴き、古紙をいただけてきました。

集まった古紙は、業者に買い取ってもらい、そのお金をユニセフに寄付する予定です。SDGsを意識した取組であるとともに、自分たちのちょっとした行動が、世界の恵まれない人々を救うということを学んでもらいたいと思います。たくさんのご協力ありがとうございました。



『人間尊重の教育フォーラム』

～美香保の主張～

12月26日(木)カナモトホールで行われた『人間尊重の教育』フォーラムで、生徒会役員2名が「子ども運営委員」として「さっぽろっ子サミット」に参加し学んだことや本校の取組を発表しました。大きなホールで、全市の校長先生など、約400名がいる中で、堂々と代表あいさつをし、質疑応答の場面でも積極的に自分たちの考えを述べるなど、大変立派な姿がありました。



「冬季美中オリンピック」開催

12月3日から5日までの3日間、昼休みを利用した3学年合同レクリエーション「美中オリンピック」が開催されました。学年や学級関係なく、3つのチームに分かれて、「障害物&借り〇〇競争」「台風の目」「二人三脚しっぽ取り」の全3種目で点数を競い合いました。今年度は、健康増進を目標とする子どもの主体性を尊重した活動を支援する「インセンティブ・ファンド”プラスのまほう”健康づくりやる気基金」推進校に本校が選定され、この基金を活用して上記の競技に使う道具を購入し、生徒考案のオリジナルトロフィーを作製することができました。

美中オリンピックは「コロナ禍でも体を動かす機会を」と3年前の保体常任委員の生徒たちが考案しスタートしました。コロナ禍後も生徒の自治的な活動として受け継がれており、美中オリンピックは本校の新たな伝統となりつつあります。また、冬季間の運動機会を生み出すとともに、生徒の「異学年交流をしたい」という思いもこの行事の大きな存在意義となっています。古き良き伝統を大切にしながら、新たな伝統が子どもたちによって育まれています。

